

数学検定のすすめ

中学生は新年度となりました。中3は私立入試を終え、いよいよ本命の公立入試にむけてラストスパートです。私立入試の結果は今年も全員合格で、春日丘高校は特待生合格数人も含む全員が特進合格でした（当塾の塾生はあくまでも公立が第一志望のことが多いため、進学するつもりのない啓明コースはまず受験しません。春日丘の実際の受験者層も上位の平均点は啓明よりも特進の方が高くなっています）。一定レベル以上の私立は内申よりも実力重視のため、この特進合格は3年間でしっかりと実力をつける努力を塾生が行ってきたことの証です。堂々と胸を張ってほしいと思います。

とはいえ、第一希望の公立入試は10日後に迫っています。今年も全員笑顔で卒塾パーティーを迎えられるよう、全力を出し切りましょう。

さて、標題にあります「数学検定」ですが、ご存じの方も多いのではないかと思えます。財団法人日本数学検定協会が実施しております「実用数学技能検定（数学検定）」のことなのですが、「英検」と同じく「数検」と呼ばれ、平成11年に文部科学省から認可を得て以来、徐々に受験者数を増やしてまいりました。社会の関心は高く、すでに総受験者数は300万人を超え、かなりのスピードで普及しています。難易度別に12級から1級までの階級に分かれ、まさに幼児からご年配の方まで、幅広い年齢層の方が受験していますが、高校・大学の入試優遇が受けられる場合があったり、2級以上で高卒認定（旧「大検」）の「数学」が試験免除になったり、「3級取ったら履歴書に書き込もう」が協会のキャッチコピーとなっているように、就職にも活用できます（企業の採用資料として広く活用されている「SPI試験の非言語分野」と数検の出題範囲は3級では53%、準2級では74%が共通しています）。計算力をみる1次検定、応用力をためられる2次検定とありますが、数学にはどちらも不可欠であり、その両方がそろってこそ本当の数学力が身につけているといえるわけです。

このたび、この「数検」の団体実施校として当塾も登録致しました。当塾塾生は英語の成績が良いことが目立っていますが、卒塾後は女子も含めて圧倒的に理系に進む人が多いのが現状です。私自身数学、理科が大好きで、「論理的思考力を伸ばすにはやはり数学だ」と思いながら毎回楽しんで授業をしています。将来の高いレベルの数学力の下敷きは、やはり小学、中学レベルの基礎・基本の技能と考え方です。数検で「解く感激」を味わいながら自分の数学力を試してみませんか。当塾では年に1度の実施予定です。今年は4月14日（日）です。

チャレンジしようと思う塾生諸君は3月9日（土）までに別紙にてお申し込み下さい。